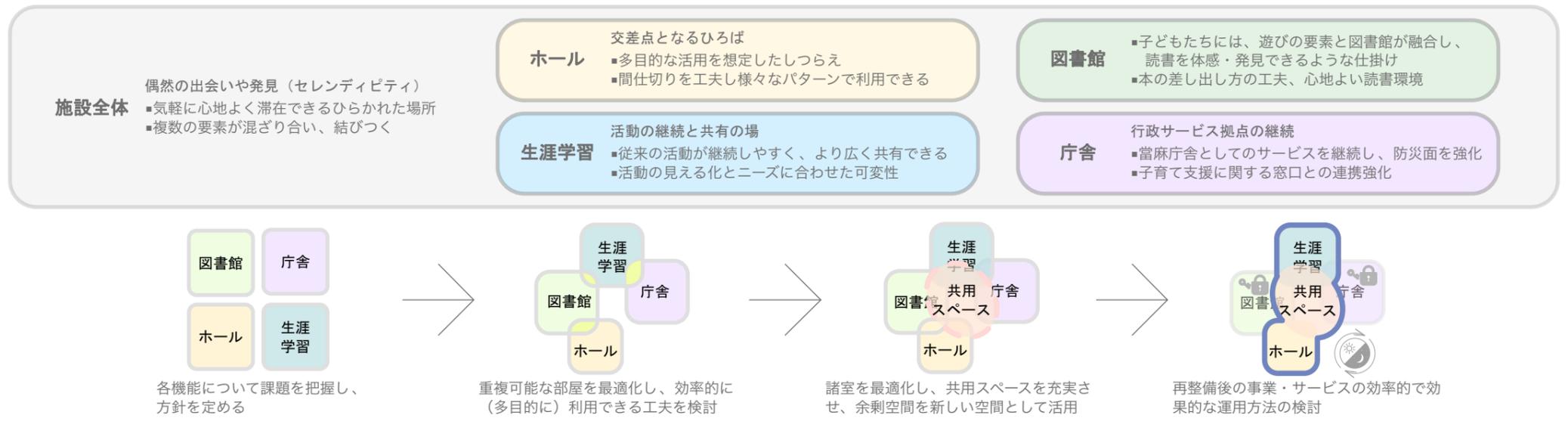


これまでの経緯

葛城市當麻複合施設整備基本計画（以下「基本計画」という。）では、市民アンケートやワークショップ、パブリックコメントや市議会特別委員会での意見を踏まえ、新しい複合施設が目指すあり方を整理しました。地域子どもたちやまちの大人たちが共に使いやすく、ゆっくり時間が過ごせる場所であることをコンセプトに、1つの施設に複数の機能を共存させるための最適化・効率化の方針について必要事項を示しています。現在進行中の設計段階では、基本計画を反映した具体的な機能・サービスの配置について検討を深めていくことになります。



これから目指す施設像

【葛城市らしい複合施設の実現】

基本計画に掲げる整備方針の具現化に加え、複合施設としてのさらなる魅力の向上を図るため、市の「地理的特性」や「まちづくりの考え方」を建築空間に反映させ、葛城市らしい複合施設を目指します。

【地理的特性】

- ・国宝を携える當麻寺や相撲発祥のゆかりの地など、歴史と文化が深く息づいた周辺地域
- ・緑豊かな山々や丘陵に囲まれ、奈良盆地が一望できる山の辺の立地
- ・日本最古の官道である竹内街道や當麻寺参道など、歴史的町並みと路地が織りなす美しさ

【まちづくりの考え方】

「立地適正化計画」
 高齢者をはじめ誰もが自立して生活できる安心・安全で賑わい・魅力のある地域づくり

「都市再生整備計画」
 市民ニーズを踏まえた複合施設整備による拠点形成を通じた、集い・憩いの場づくり

↓

今後も住み心地よく、生涯にわたって暮らしてもらうことを方針とし、地域に根付いた文化やコミュニティを守る担い手として、高齢をはじめ子育て世代を含めた誰もが自立し、支えあう中で安心して住み続けられるよう、地域に開かれた市民活動の場を設ける。

【建築空間に取り入れる要素】

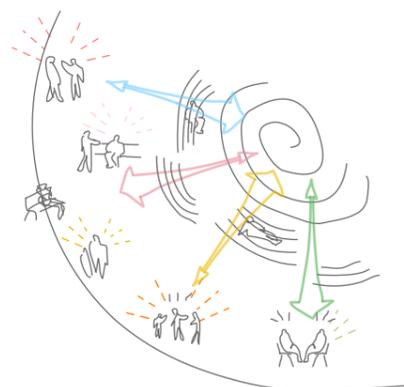
- ・国技館の土俵のような、来館者の一体感を生み、施設の核となる空間デザイン→〈ひろば〉
- ・葛城市の街並み、路地、坂道、石段、井戸端のイメージを取り入れた、まち歩き・散策・寄り道を誘発するしつらえ→〈みち〉
- ・多様なしつらえの中をつなぎ、来館者の新たな居場所・学び・活動・出会いを創出する空間づくり→〈かけはし〉
- ・奈良盆地の山々の稜線や街並みが覗く、見晴らしの良い景色を取り入れた、ゆったりとした時間の流れを感じる、居心地の良い居場所づくり→〈まち〉

【建物全体のコンセプト】

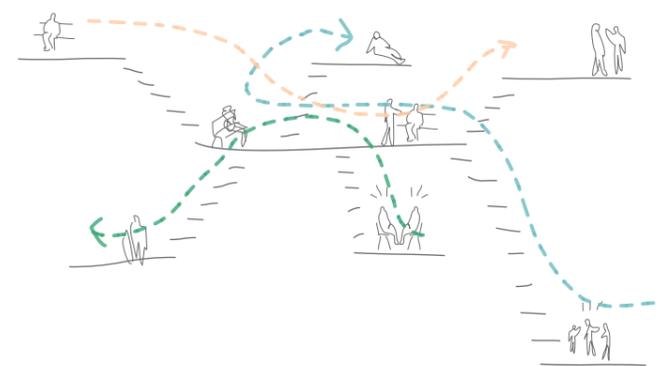
基本計画の反映及び葛城市らしい複合施設の実現に向けた建築コンセプトを以下の通り定め、各フロアのレイアウトに反映します。

「ひろば・みち・かけはしが奏でるみんなのまち」

- 〈ひろば〉 改修前のホールは、気持ちよく施設全体を見渡せる「ひろば」とし、来館者の一体感を生む、大きな結節点の役割へと生まれ変わらせます。
- 〈みち〉 歴史街道のように、めぐり歩く「みち」を配することで、来館者は変化に富んだ館内の様子に誘われつつ、自分の居場所を散策することができます。
- 〈かけはし〉 「ひろば」を囲む階段は、すべてのフロアをゆるやかにつなぐ「かけはし」となります。見晴らしの良い「ひろば」を介し、フロアの異なる「みち」を「かけはし」がつなぐことで、来館者の散策範囲が館内〈まち〉全体に広がります。



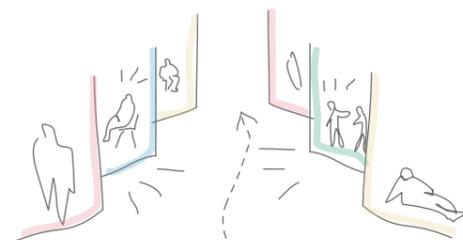
〈ひろば〉
 興味を引き寄せたり放ったりする、中心的な空間がある



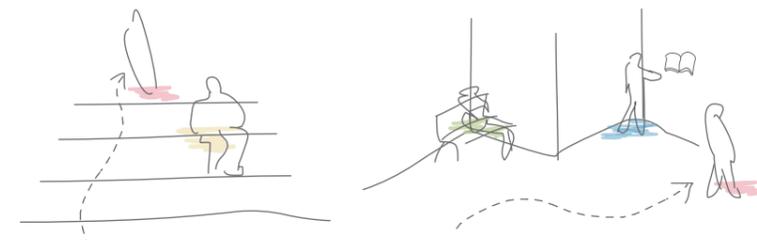
〈かけはし〉
 自由に行き来でき、興味がつながる



〈まち〉
 賑やかさと落ち着いた空間が共存する

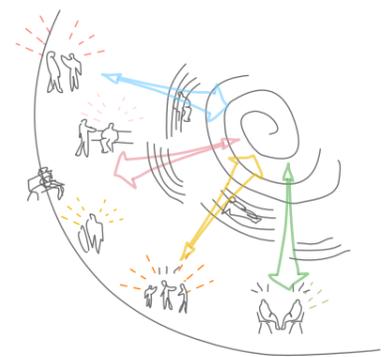


〈みち〉
 歩くだけで色々なことに興味が湧いてくる

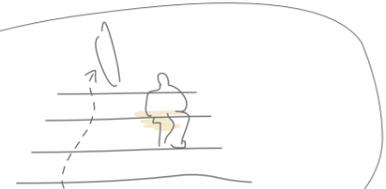


〈みち〉
 自分の好きな場所を選んで、自由に過ごす

街に住むみんなが気軽に訪れ、気がつけば何かを読んでいたたり、
新たな気づきを得られたりできる気持ちの良いひらかれた場所。
そんな空間と時間をつくりたいと考えています。



興味を引き寄せたり放ったりする、
中心的空间がある

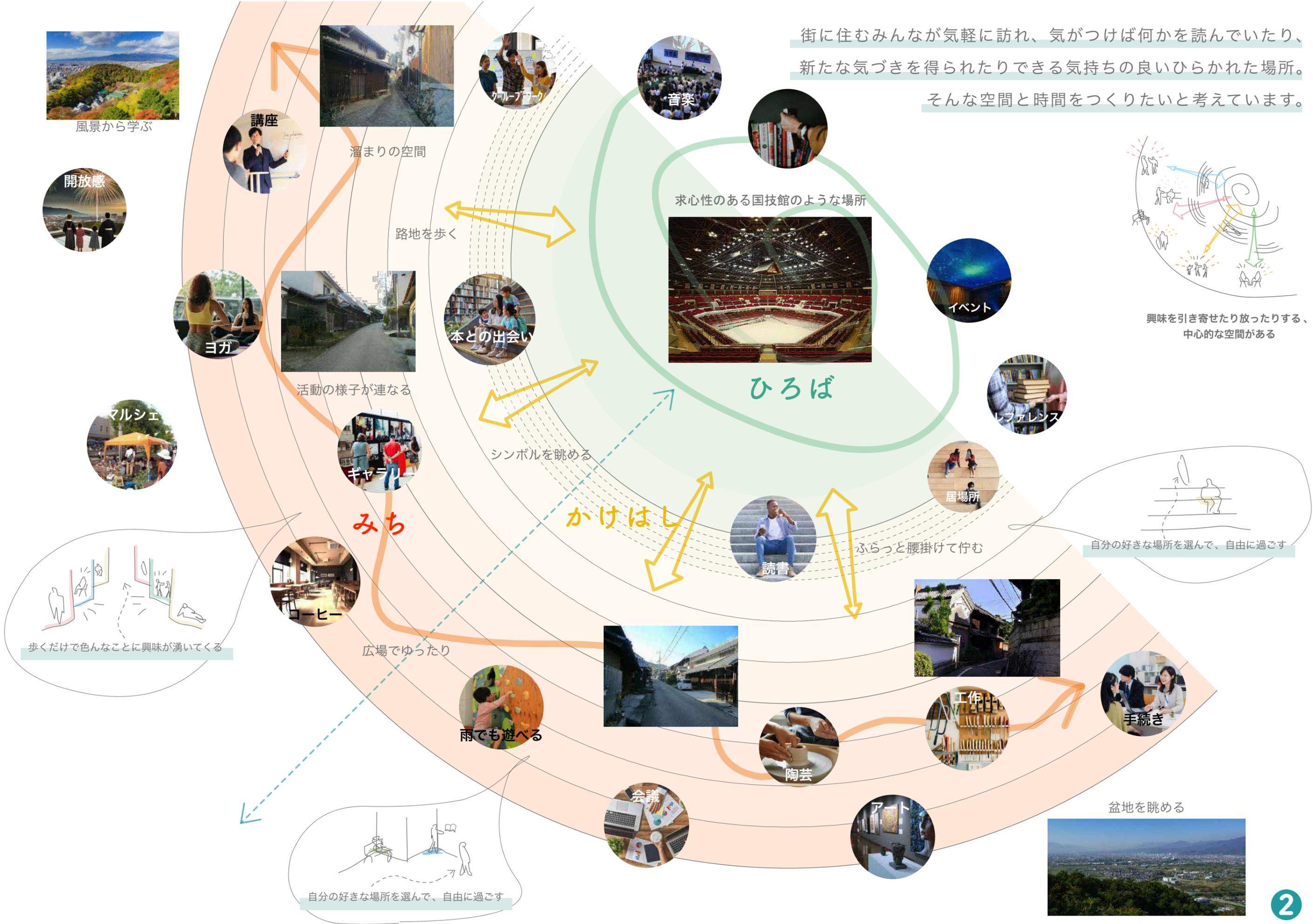


自分の好きな場所を選んで、自由に過ごす

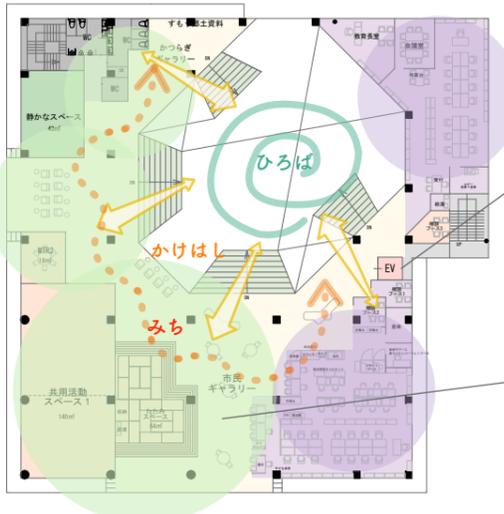
求心性のある国技館のような場所



ひろば

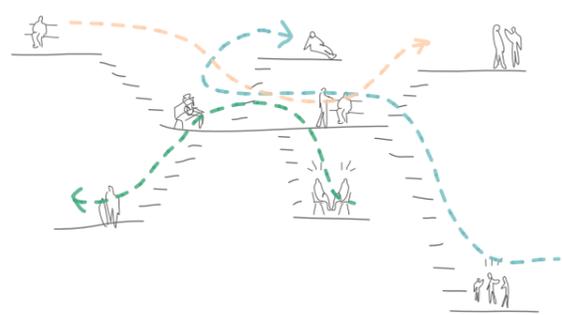


3階



窓 一つの窓口で多くの手続きが可能となった総合窓口を軸に、行政の相談窓口を集約し、落ち着いて手続きができる場とします。

緩 これまでの機能確保に加え、まちの大人たちにとって、普段とは異なる時間の流れを感じられるような、居心地のよい癒しの場づくりを意識します。

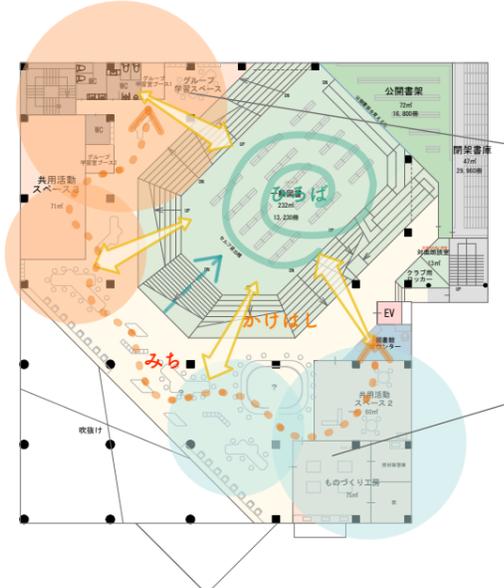


自由に往来でき、興味がつながる



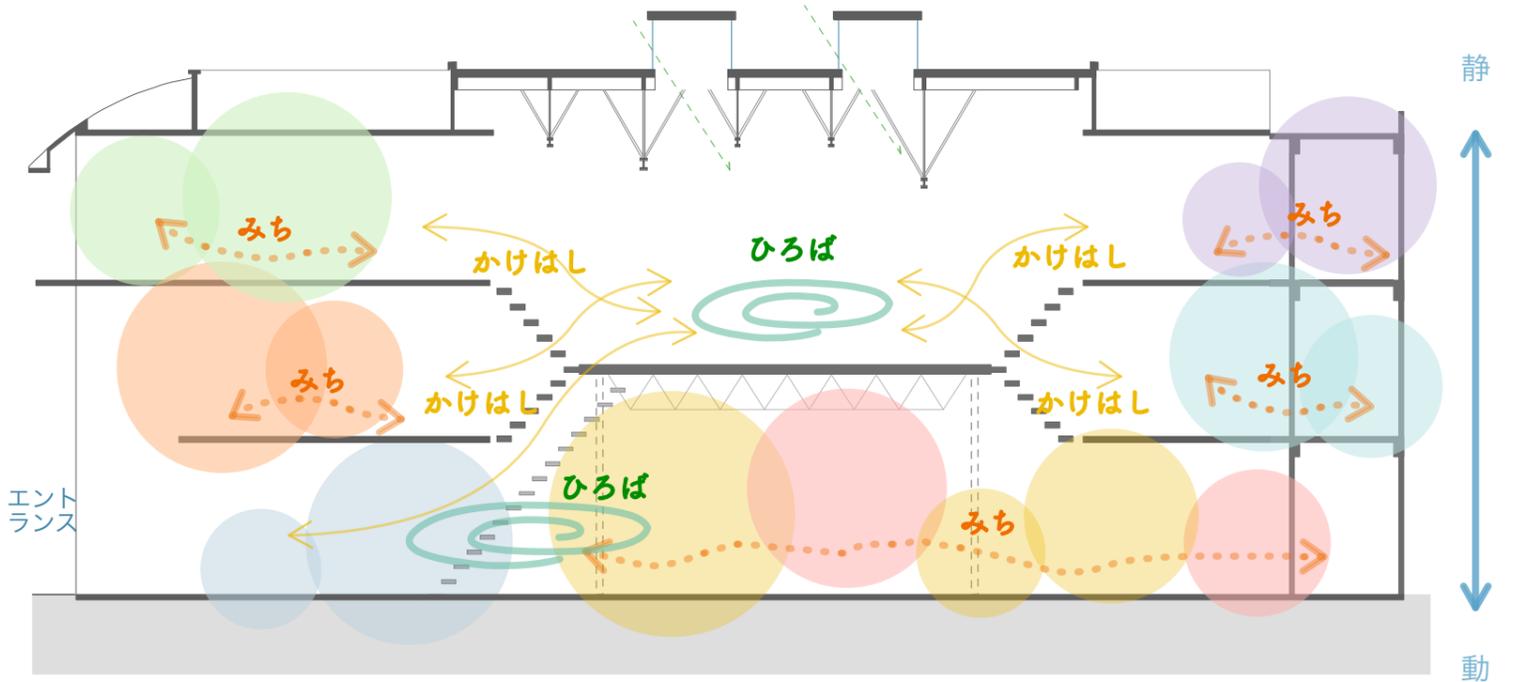
賑やかさと落ち着いた空間が共存する

2階

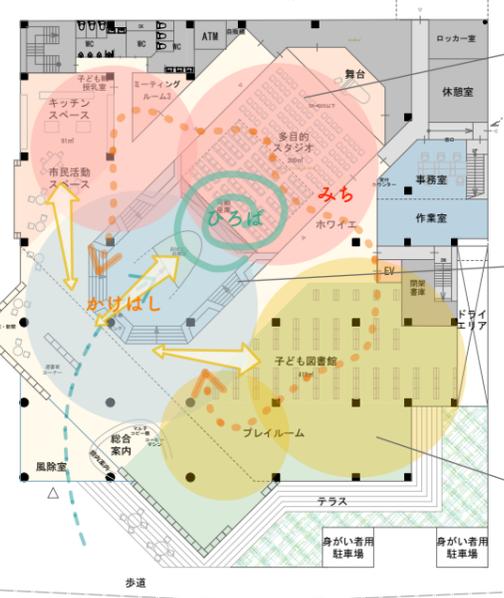


学 様々なものが吸収できる学生たちの居場所について改めて考え、新たな気づきや仲間・まちとのつながりが得られる場を新設します。

創 生活をいっとう豊かにする創作や芸術活動を身近に感じ、誰もが参加しやすいと思える運営に応えられるよう、ひらかれた場を目指します。



1階



活 空間の変換性や防音設備にも配慮しつつ、あらゆる自由な活動を支え、まちの活力あふれる様子が肌を感じられる場とします。

迎 まちに住む皆が気軽に訪れたいような、気持ちの良いひらかれた場を目指し、様々なヒト・モノ・コトを迎え入れる場とします。

育 これからの子どもたちが、成長に応じた学びの場と結びつきを保てるよう、楽しむことができる環境を入口に、全館を通してまちの大人と共に育める場とします。





開かれた市民活動スペースと連携しやすい位置に配置したキッチンスペースは、多目的スタジオと併せて災害時にも活躍します。

最大200人を収容する多目的スタジオは、フラットにして大空間とすることや4つに区切って少人数向けの防音室とすることができます。

適応指導教室からの段差のない動線に配慮します。



キッチンスペース



みんなのベンチ

本棚に組み込まれたベンチが様々な人の居場所となります。大階段の下には、おはなしの部屋が納まります。

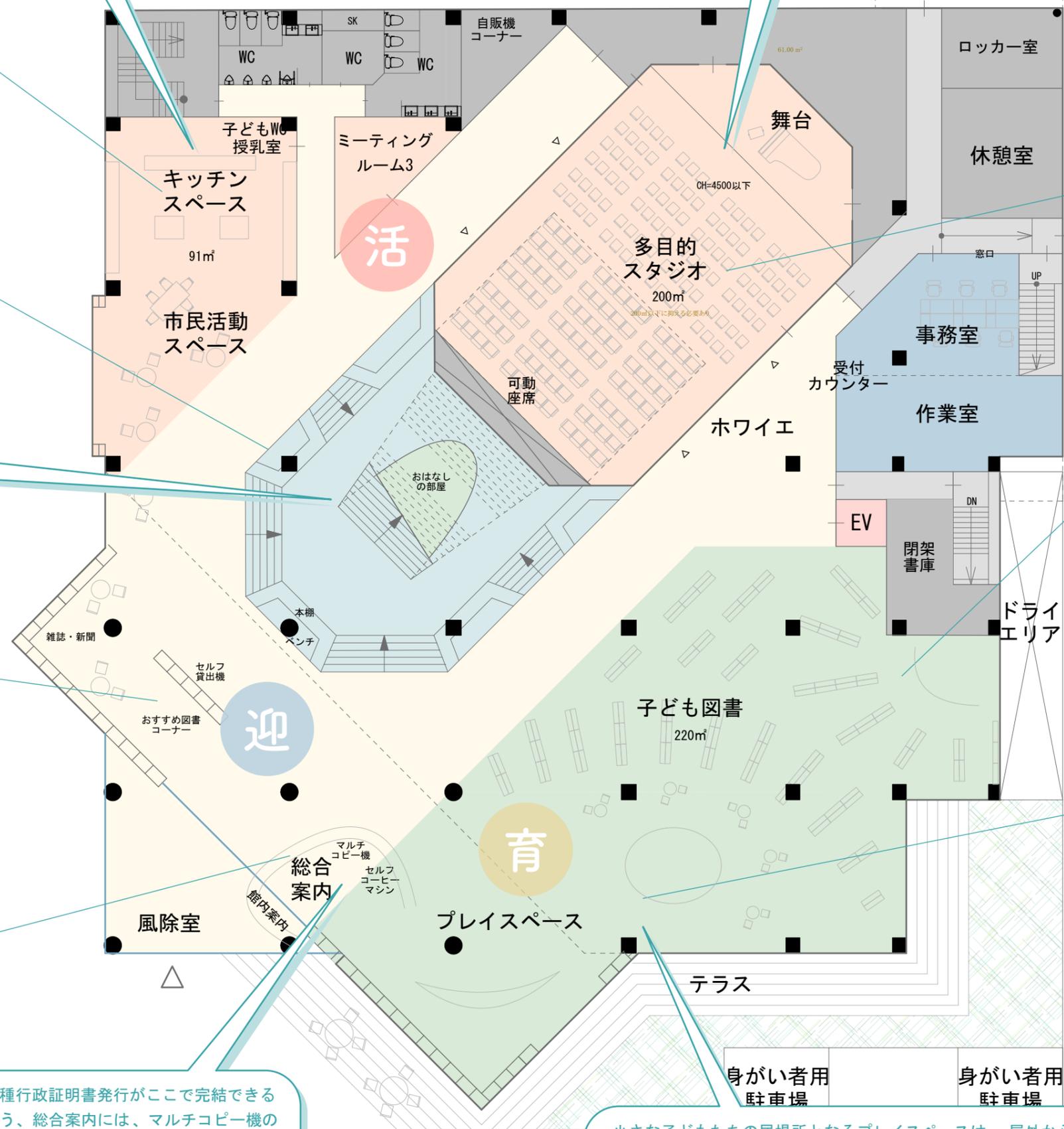


おすすめ図書コーナー



受付カウンター

各種行政証明書発行がここで完結できるよう、総合案内には、マルチコピー機の設置を検討しています。



歩道



多目的スタジオ



子ども図書館



子どもの居場所



小さな子どもたちの居場所となるプレイスペースは、屋外からもその様子が感じられます。子ども図書に隣接することで、本と出会うきっかけをつくります。



グループワーク

グループワークスペースでの個々の活動の成果を、隣り合う共用活動スペースで共有することができます。



軽運動

様々な利用シーンを想定した閲覧席を確保します。図書館に滞在する時間を心地よく過ごせます。



みんなの閲覧席

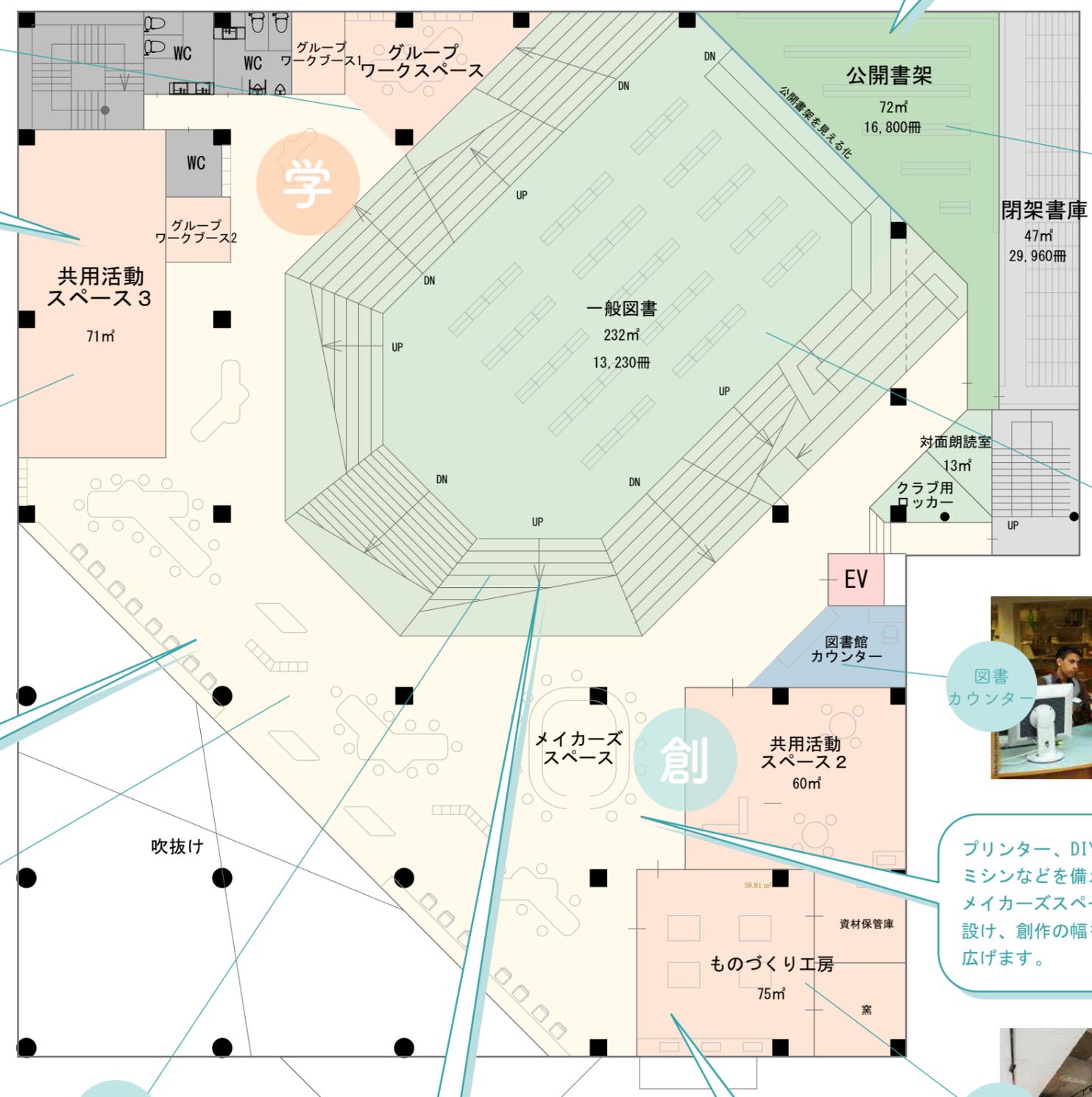


様々な閲覧スペース



「かけはし」となる階段は、各階をつなぐ散策路となるだけでなく、座って話したり、本を読む場所にもなります。

創作系の部屋は、外から活動の様子が見え、見る人の興味を惹き、創る人の意欲を高めます。



書庫の中に入って本を探すことができます。



公開書架



開放感のある開架



図書カウンター

プリンター、DIY道具、ミシンなどを備えたメイカースペースを設け、創作の幅を広げます。



創作系の部屋





市民活動の情報共有・発信やアーカイブができる、まちの情報スペースとして活用します。



かつらぎギャラリー



山への見晴らし



くつろげる家具



井戸端スポット



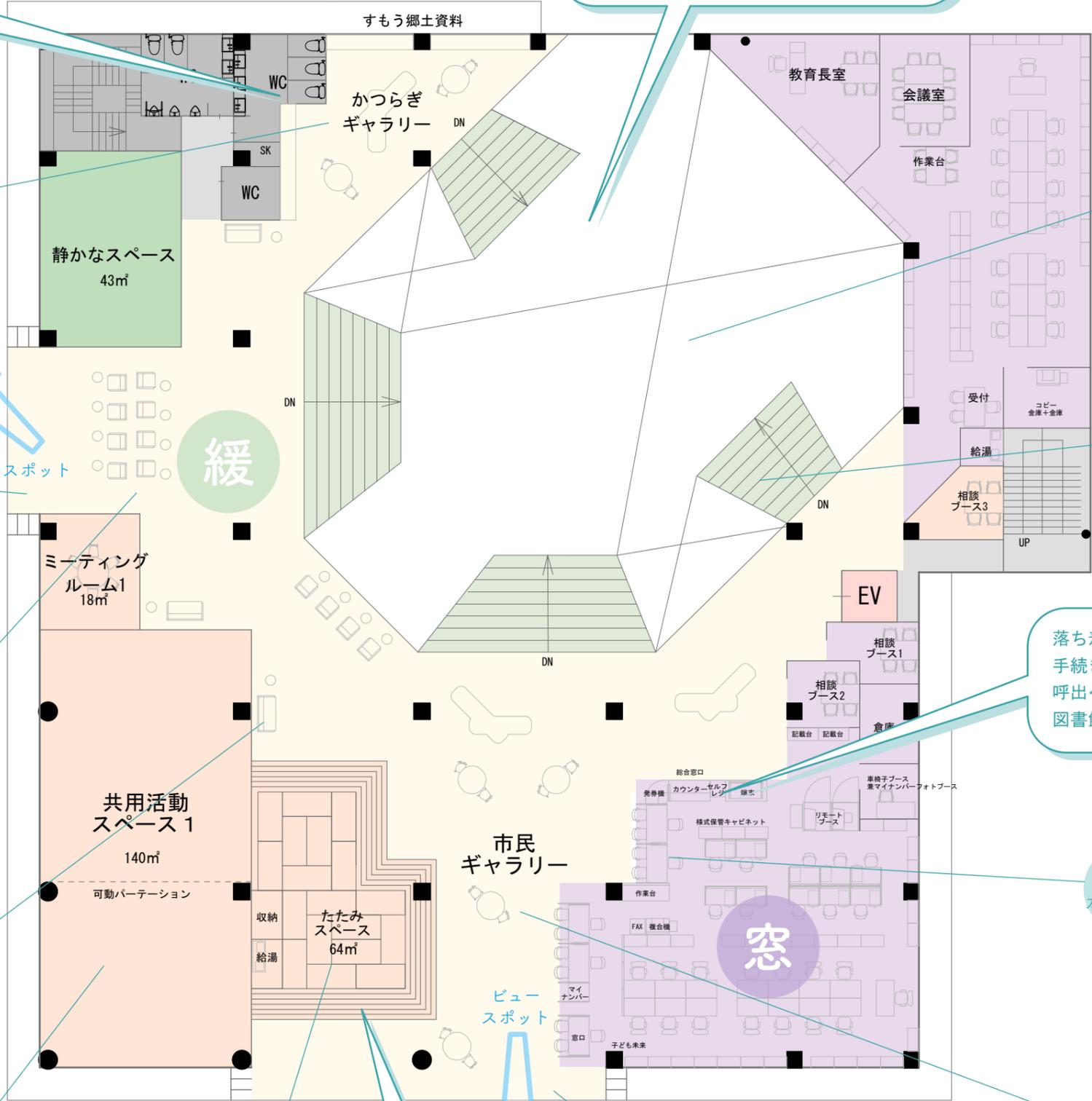
展示やセミナー



たたみと縁側

和室を使っていない時は間仕切りを開放して誰でも使えるようにします。縁側に腰掛けたり、寝転んで本を読むことができます。

中2階の「ひろば」に立つと、ひと目で全ての活動を一望することができます。



求心力のあるひろば



様々な居場所

落ち着いたフロアでゆっくり手続きや相談ができます。呼出ベルの導入で待ち時間に図書館をめぐる方も安心です。



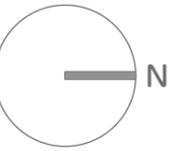
庁舎カウンター



ギャラリー



見晴らしスポット



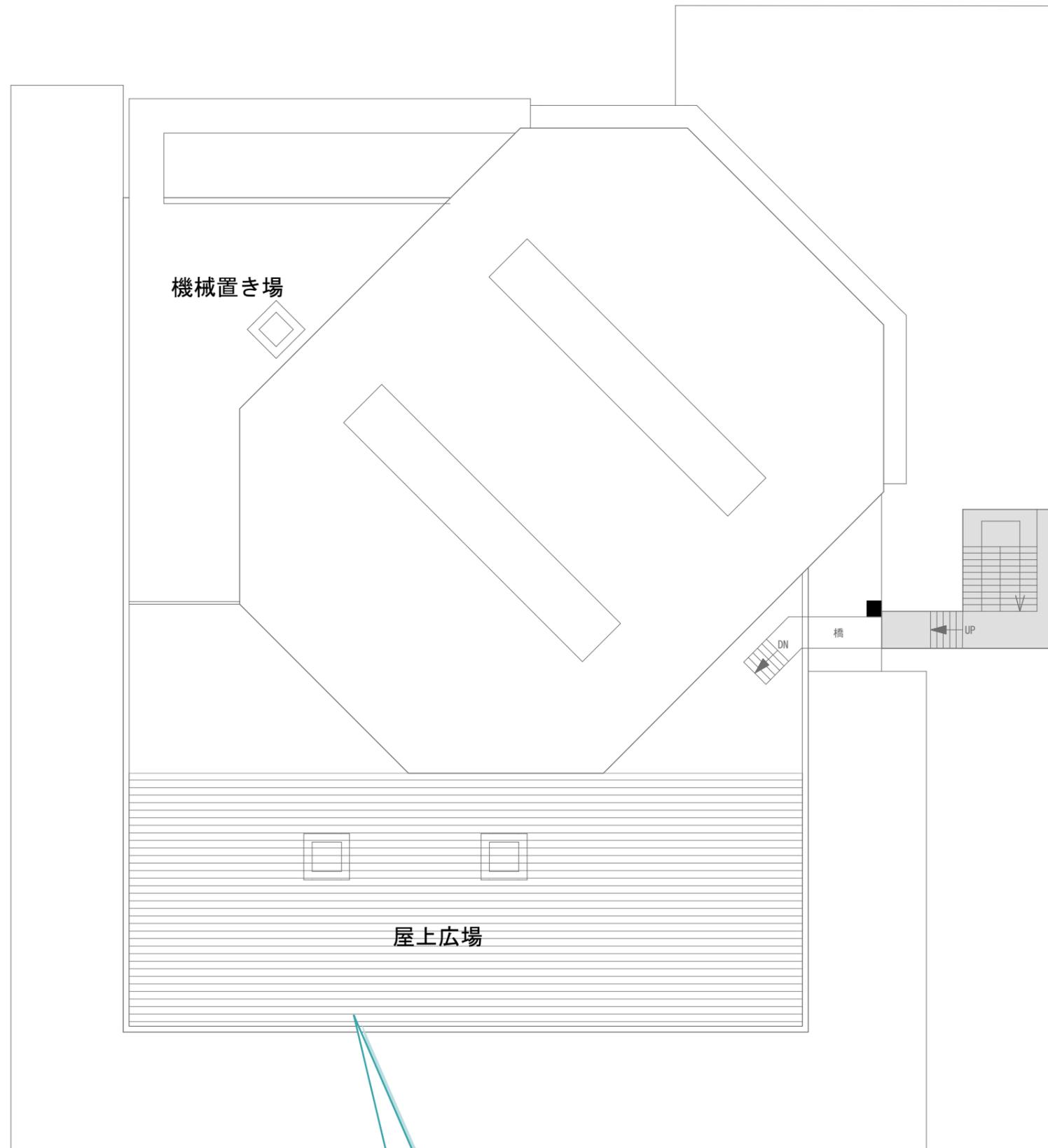
花火鑑賞



山並み



天体観測



眺めが良く、手すりが高く安全な屋上を有効活用します。
ヨガや天体観測、スケッチ大会や歴史解説ツアーといった
イベントでの使用が可能です。



ビュー
スポット



大和平野



